

私たちの町の文化財

■第1話 花岡山と招魂社

花岡山と言えば、神風連の乱で斃れた熊本鎮台種田指令政明長官を始めとした花岡山陸軍埋葬地、県令安岡良亮の墓、など、死者や霊に関連する施設が点在しています。その中で「花岡山招魂社」の存在はご存知でしょうか。石垣の上に玉垣を廻らした石祠の社殿がありますが、現在は屋根に覆われています。

明治2年（1869）、熊本藩の第11代藩主細川韶邦（よしくに）と第12代細川護久（もりひさ）が中心となり、幕末期京都池田屋事件で亡くなった宮部鼎蔵以下藩士150柱を祀る小さい石祠を建てたことに由来します。藩主自ら計画していることから、藩士の活躍が熊本藩の面目が立つという思いが強かったのかもしれません。石祠が建てられた頃は招魂場と言い、周辺に桜を植樹したそうです。かつて祇園山と呼ばれていた山も、この頃から「花岡山」と呼ばれるようになります。その後昭和14年（1939）招魂社制度改正に伴い、名称を熊本県護国神社に改称します。太平洋戦争を経て、昭和32年（1957）藤崎台に遷座して、今の熊本県護国神社へと繋がります。現在の花岡山招魂社は、熊本県護国神社の飛地境内となっていて、毎年12月30日に「花岡山招魂社例祭」として祭事が執り行われています。日本が近代国家として生まれ変わろうとする中、主君のため国のために死んだ人々をお祈りする場所として、花岡山は存在しています。

熊本市文化振興課 山下 宗親氏

護国神社の遷座前の
地が・・・
花岡山にあったとは
知らなかったモン

